

2020年7月6日(月)
愛知県建設局河川課
改修グループ
担当 益田、鈴木、早野
内線 2726、2728
ダイヤルイン 052-954-6554

中江川調節池の運用開始について

～水害を大幅に減らします～

中江川下流域の浸水被害軽減を目的として、中江川調節池（小牧市）は1991年の台風18号を契機に、1995年度より床上浸水対策特別緊急事業（※1）に採択され、事業着手しました。

その後、2007年10月に策定された一級河川庄内川水系新川圏域河川整備計画（※2）への位置付けを経て、総合治水対策特定河川事業（※3）により整備を進めてきました。

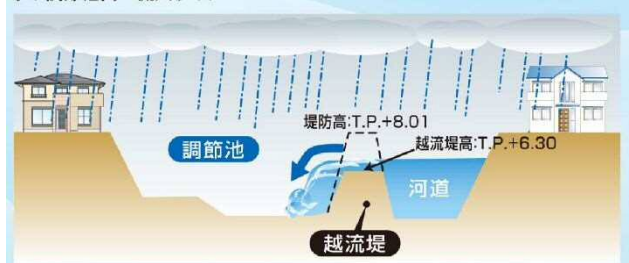
この度、本調節池の工事が完了し、2020年7月10日から運用を開始しますのでお知らせします。

1 施設概要

- ・施設名：中江川調節池
- ・整備箇所：小牧市多気南町地内
- ・河川名：一級河川新川水系中江川
- ・調節容量：58,000 m³
- ・整備面積：34,500 m²
- ・調節量：10 m³/s
- ・施設管理者：愛知県

○調節池とは

洪水時には調節池堤防の一部分を低く切欠いた箇所(越流堤)より河道の洪水が調節池内へ流入する。



2 整備効果

- ・東海豪雨と同規模の降雨があった場合に、調節池より下流の水位を10～20cm程度低減させます。
- ・2004年3月に完成した中江川水門及び排水機場の整備効果と併せ、最大97cm程度水位を低減させ、中江川流域（※4）の浸水面積を約137haから約43haに減少させます。（約94haの減少）

3 これまでの経緯

- 1995年度 床上浸水対策特別事業採択・地元説明会開始
- 1999年度～2018年度 用地買収
- 2004年3月 中江川水門・排水機場完成
- 2007年10月 一級河川庄内川水系新川圏域河川整備計画の策定
- 2008年3月 工事着手
- 2020年6月末 工事完了

※1 床上浸水対策特別緊急事業

過去概ね10年間で氾濫のあった河川について、概ね5ヵ年程度で床上浸水被害を解消するための河川改修事業。

※2 河川整備計画

河川整備基本方針に沿った当面（今後概ね20～30年）の河川整備の具体的な内容を定め、河川整備の計画的な実施の基本となるもの。

※3 総合治水対策特定河川事業

都市化の進展に伴い治水安全度の低下が著しい流域において、流域対策とともに行う河川改修事業。

※4 中江川流域

小牧市、豊山町、北名古屋市にわたる合瀬川と大山川に挟まれた低地（添付資料参照）。

一級河川 中江川

中江川調節池



越流堤は、堤防を部分的に低くし、洪水の一部が調節池に流れ込むようにする施設です。
越流堤は、水の流れが速く複雑であるため、壊れないように表面をコンクリートで覆い、頑丈な構造としています。

中江川流域とは

中江川は庄内川水系新川の支川である合瀬川に合流する、流域面積約6.3km²、河川延長約2.7kmの河川である。
流域は、小牧市、豊山町、北名古屋市にわたり、合瀬川と大山川に挟まれた低地であるため、過去に度重なる浸水被害に見舞われ、平成3年及び平成12年の東海豪雨では、甚大な被害が発生している。
また、当該流域は、県営名古屋空港に隣接する、小牧市、北名古屋市の市街地に近く、名古屋都心からも10km程度であり、市街化の進展が著しく、今後も市街化すると推定されている。



中江川調節池

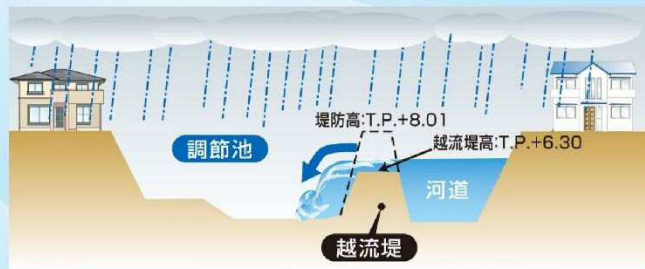
中江川調節池は、中江川下流域の浸水被害軽減、中江川上流域・新中江川の河道改修の促進及び小牧市総合雨水排水計画の早期実現のために、床上浸水対策特別緊急事業として、位置づけられ、その後、総合治水対策特定河川事業により、令和2年7月に完成した。中江川調節池が完成したことにより、中江川本川は、国道41号線より下流において、1/10規模の降雨に対して、整備が完了した。

施設概要

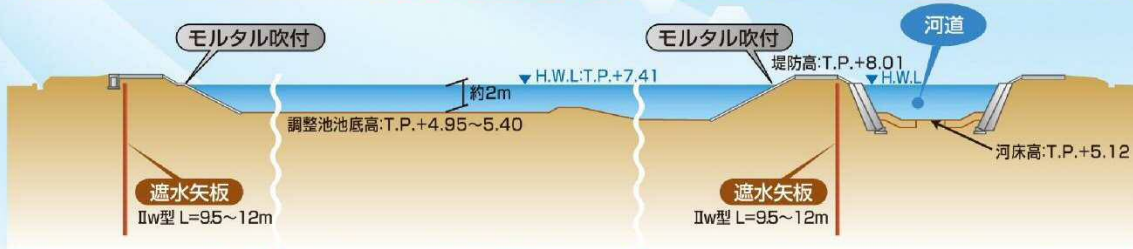
- 整備箇所 : 1k500~1k860付近 (小牧市多気南町地内)
- 面積 : 約34,500m²
- 洪水カット量: 10m³/s
- 貯留量 : 約58,000m³

模式図 (洪水時)

洪水時には調節池堤防の一部分を低く切欠いた箇所(越流堤)より河道の洪水が調節池内へ流入する。



調節池断面模式図(W=1/10)



中江川調節池の整備効果

中江川調節池を整備することで、調節池より下流の水位を10~20cm程度低減させる。また、中江川水門及び排水機場の整備効果と併せると、最大97cm程度水位を低減させ、浸水面積を約137haから約43haに減少させる。

東海豪雨実績降雨に対する水位効果

